

施設申請書類の提出および注意事項について

(認定教育施設 I・II 申請用)

注意事項をご確認のうえ、簡易書留など追跡可能な送付方法でご提出ください。

<提出書類>

- 【1】 認定教育施設申請書・診療および教育施設内容証明書
- 【2】 食事指導を行っていることを示す資料
- 【3】 糖尿病患者教育活動を行っていることを示す資料
- 【4】 研修指導の補助ができる医師のリスト
- 【5】 施設申請に伴うチェック項目表
- 【6】 施設ホームページ等の画面印刷
- 【7】 研修カリキュラムチェックリスト(施設用)
- 【8】 研修計画書

【1】 認定教育施設申請書・診療および教育施設内容証明書

※ エクセルファイルのシートで分かれています。印刷後、押印等が必要です。

※ 作成後、合計 3 ページをホチキス留めしてください。

(1) 認定教育施設申請書

- プルダウンより、“認定教育施設 I” または “認定教育施設 II” を選択してください。
- 診療科長と教育責任者(研修指導医)が同じ方でも差支えありません。
- 診療科名は、「内科」が独立した診療科として標榜されている場合は「内科」として、内科系でさらに診療科が分かれて標榜されている場合は、その診療科名で申請してください。

(2) 診療および教育施設内容証明書

- 上部の施設名等は、認定教育施設申請書 シートから反映します。
- 「1. 常勤の研修指導医」の【教育責任者】は、認定教育施設申請書 シートから反映します。
※常勤の研修指導医が申請時に不在の場合、施設申請と後任の研修指導医申請を同時に行うことができます。「1. 常勤の研修指導医」欄に申請者名を記載し、氏名の横に“(同時申請中)”と記載してください。後任の研修指導医申請書類と施設申請書類を別々にまとめて同封の封筒を使用して提出してください。封筒に入らない場合は、お手数ですが別途封筒をご用意ください。
- 「3. 食事指導について」欄には、指導内容を簡潔に記載してください。※資料については【2】へ。
- 「4. 糖尿病患者教育について」欄には、教育内容を簡潔に記載してください。※資料については【3】へ

【2】 食事指導を行っていることを示す資料

食事指導を行っていることを示す下記2種類の資料をご提出ください。

- 食事指導件数が確認できる表(昨年度の月ごとの件数)
- 食事指導を行う際に使用しているスライドや冊子 など

【3】糖尿病患者教育活動を行っていることを示す資料

施設で、どのような患者教育を行っているか実態がわかる下記2種類の資料をご提出ください。

- 糖尿病教室のスケジュール表や担当 など
- 実際に使用しているスライドや冊子 など

【4】研修指導の補助ができる医師のリスト

- 研修指導医(糖尿病学会認定)のほかに、貴施設において研修指導の補助ができる常勤の医師リストを提出してください。
- DL ファイル内のサンプルを使用していただいて構いません。
- 該当する医師がいない場合は、その旨をご回答ください。

【5】施設申請に伴うチェック項目表

- 施設区分をプルダウンから選択してください。手書きで作成される場合でも、必ず選択してから印刷をお願いします。
- チェック欄の「はい」または「いいえ」を選択してください。
- 外科および神経内科、脳神経外科、循環器内科について、標榜が異なる場合や「いいえ」の場合は、どのように研修を行なっているかを研修計画書に記載してください。
- ②のチェックは、研修カリキュラムチェックリストおよび研修計画書に関するチェック項目です。必ずご確認のうえ、該当の書類を作成してください。

【6】施設ホームページ等の画面印刷

施設ホームページ等の「診療科一覧」、「外来担当表」、「当該診療科の診療内容等の説明」をプリントアウトして必ず添付してください。

【7】研修カリキュラムチェックリスト(施設用)

- 印刷して作成してください。
- 研修項目の到達目標が()で示されているのは小児科の施設における到達目標です。
- 到達目標に対して、自施設のみで研修可能な項目に「○」丸をつけてください。自施設のみですべての研修ができない場合、認定教育施設Ⅱとして申請してください。該当する項目の特記事項欄には、連携を組む認定教育施設ⅠまたはⅡ等の教育施設名(診療科まで)を記載してください。また、下記【8】研修計画書には研修カリキュラムを補完するための連携を組む施設へのローテーションなどの具体的対策を記載してください。
- 到達目標「C」は、自施設で研修ができない場合であっても、最低でも知識を有することができるようにしてください。見学などで経験している、経験はないが、補法、解釈、診断について理解している、レクチャー、セミナーなどで学習できれば、「○」丸としてください。
- 「Ⅳ.診療経験を必須とする症例数」で示している症例数は内科と小児科で異なります。自施設で経験することができれば「○」丸をつけてください。
- 自施設で診療経験ができない場合、特記事項欄に連携を組む教育施設名(診療科まで)を記載してください。

【8】研修計画書

研修計画書は3年間の研修期間を標準として下記(1)～(4)の概要と到達目標をどのように実施しているか記載してください。1年次、2年次、3年次と年次ごとに分けて、具体的に2000字程度にまとめて提出してください。

(1)診断

- ① 糖尿病の診断基準および病型分類に関する学会勧告・委員会報告(「糖尿病」42巻5号385頁～404頁、51巻3号281頁～283頁、55巻7号485頁～504頁)の内容を理解し、臨床応用できる。
- ② 糖尿病の診断に必要な検査を実習し、自分でできるようになる。
- ③ 重症度(境界型からケトアシドーシス→昏睡に至るまで)の診断ができる。
- ④ 合併症の有無と、ある場合はその進行度の診断が自分でできる。

(2)治療

- ① 個々の患者に適した治療目標の設定ができる。
- ② 食事療法の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ③ 運動療法の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ④ 経口血糖降下薬の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ⑤ インスリン療法(1型・2型・その他に区別して)の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ⑥ 合併症を伴う糖尿病の治療の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ⑦ 糖尿病前昏睡～昏睡患者の治療の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
- ⑧ 糖尿病妊婦の管理を習得、実施しその効果が評価できる。
- ⑨ 低血糖に関する正しい知識と対応を体得する。

(3)患者指導・教育

- ① 個人・集団指導を体験し、カリキュラムを作り、実施、評価できる。
- ② 学会の食品交換表の利用方法の指導、運動処方作成、インスリン自己注射および血糖自己測定指導ができる。
- ③ 日本糖尿病協会や個々の施設等の患者グループの教育活動に参加し、それらの意義を理解する。
- ④ 患者指導チームのあり方、質の向上方法についてのカンファランス参加を通じて正しい認識を持つ。

(4)その他

研修カリキュラムで症例経験を必須とする下記1)～3)の疾患等に関して、研修の実施を具体的に記載してください。

- 1) 脳血管疾患、心血管疾患急性期の糖尿病管理
- 2) 全身麻酔による外科手術症例の周術期管理または急性期全身疾患の糖尿病管理
- 3) 糖尿病妊婦の糖尿病管理

※3) は、産科が併設されていない場合、他院の産科との連携で糖尿病妊婦の糖尿病管理を経験、研修できることを記載してください。